

## 第3回信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会 議事録

1 日 時 令和2年1月29日(水) 13:30～15:30

2 場 所 福島市役所4階庁議室

3 出席者 委員

西内 みなみ 委員長、奥本 英樹 副委員長、薄 真幸 委員

菅野 真記子 委員、佐藤 祀男 委員、渡邊 仁 委員、谷 美和 委員

若林 初美 委員、本田 政博 委員、遠藤 直紀 委員、志賀 裕悦 委員

春山 哲郎 委員、村川 友彦 委員、鈴木 深雪 委員

オブザーバー

小浪 尊宏(代理:下田一朗)

4 内 容

(1) 開会

(2) 議事

①第2回委員会の振り返り(資源の保全と活用)

②保全に関する基本的方針

③活用に関する基本的方針

④今後のスケジュール

(3) その他

(4) 閉会

5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

6 委員の主な発言

①第2回委員会の振り返り(資源の保全と活用)

(委員)

資料1のP5のところに記載があるが、ジオラマの作成について補足すると、福島駅の新幹線と在来線の連絡通路に大々的なジオラマを置けば福島市に来られた方にインパクトがあるのではないかと思った。

(委員)

意見書にも書かせてもらったが、前回の委員会の後にガイドセンターに行ってみたところ、センターからの見晴らしがよく、市街地が見渡せる素晴らしい場所にあった。

しかし、自分のイメージしているものは信夫山の麓の公園付近に駐車場も完備された広めの施設である。観光客向けの案内や歴史的な出土品の展示は勿論、市内の方が写真を撮りに行ったり、信夫山で活動をするサークルの方が普段から利用できるような施設があると人の出入りが多くなるのではないかと思う。

また、地元の高中生や学生の写真部の生徒も利用でき学生が撮った写真を展示してもらえる等、多目的に使える施設があると幅広い年齢層の方に信夫山に足を運んでもらえるようになるのではないか。

さらに、信夫山に関する資料を自由研究の題材として配布してほしいと前回の委員会で発言したが、実際に現地の仮置場を確認したり前回配布された資料にある空間線量の値を見ると思っていた以上に線量の数値が高く、まだ放射能に対する不安が残っていると感じた。令和3年度に汚染土壌搬出が終わるということなので、安全が確保できてから子供たちを信夫山に行かせることが安心かと思った。

(委員長)

ガイドセンターについての発言と汚染土壌を含めた信夫山全体の安全性の話が挙げられたが、事務局よりその点について何か説明はあるか？

(事務局)

除染に関しては、別途配布した「信夫山の資源の保全と活用に関する基本的方針(案)」P10に記載しているが、信夫山全体の除染は行っていない現状である。既に生活圏森林は除染を行ったが、それ以外の部分についてはまだ実施していない。今後どのように市民の方に周知するかということと森林の除染については、全市的な課題ということで整理させていただいている。

(委員)

後日提出した意見書に「古関裕而と信夫山の繋がりがあるのか？」と書いた。旧祓川橋は古関裕而の祖先が寄贈したものであるが、本人と信夫山とを関連付けるものは何かないのか。

(委員)

古関裕而氏のお墓がある。これから観光スポットになるのではないかと思っている。

(委員)

これから朝ドラも始まるため、そういったものを P.R.して良いと思う。

(委員長)

それ以外にも第一展望台には歌碑もある。タイムリーなスポットになりつつあると思うので市で P.R.していただきたいと思う。

(委員)

桜の咲く前に近隣の町内会による清掃活動をしているが、前回の委員会では不法投棄の問題もあるとの事だったので、可能な範囲で構わないので大々的に市と一緒に清掃活動を行うことを考えたら良いのではないかな。

(委員)

以前からお願いしているとおおり、専門委員会を早急に作ってほしい。信夫山の資源が何なのかが明確になっていない。これを明確にすることによって市民からもいろいろな考えが出るようになるし、市外から来た方も信夫山が素晴らしいと思うようになる。

P.R.のためにも自然・信仰・歴史・地理の分野ごとに専門委員会を立ち上げることで、市民の方に知らせる事ができるのではないかな。

御山・信夫山線という第一展望台に行く途中の道の拡幅工事については、距離を 340m、幅 5,6mに広げられ、土手をコンクリートで固めると聞いており、すでに保安林が伐採されている。これは自然を守る・保全するという事に逆行していると思う。道路を拡幅するため余計に保安林が減っているし、道路や法面に雨がかなりの量となって土砂災害を逆に起こすのではないかなと思う。

なぜ道路を拡幅するのか。それは、汚染土壌の搬出と歩行者の安全を確保する理由で工事が進められている。拡幅途中には、学術的に貴重な岩石が露出している場所もある。これは貴重な資源であるはず。それを壊されるのは情けないというか何とかならないかな。そのため信夫山を守る会として市長に早急な中止の要望書を提出したが返事が無い。工事は永久に中止するべき。

道路を広げる理由は、10tトラックが安全に通るための拡張だが、東側の仮置場は拡張せずそのまま搬送している。事故も起きていない。市民の安全性と理由付けし、かこつけている感じがする。

また、第一展望台の西側仮置場は、汚染土壌搬出後に駐車場になると聞いたこともある。コンクリートで固められると、雨量がかなりの量になって下に流れ土砂災害が起きないかと心配している。実際、雨が降った次の日に行くと雨水が側溝から溢れて流れ出ている。今でそのような状態なので、道路を拡張してコンクリート面が増えれば土砂災害が増えるのではないかな。削った保安林の箇所は、両側から木が重なっておりトンネル状になってお

り良い場所だった。「ジパング」の中に、詩人の和合さんが自分の住んでいる街や山を歩いて、見るだけでなく耳から聞いて詩が生まれると言っている。車で上ったのでは、実際の自然の中にある林の囁きや小鳥の囀りなどが聞こえないので、なんとか残してもらいたい。そのような方向で良い信夫山にしていきたい。

(委員)

先程の保全、木を残せ、切るなという話であるが、実際は道路が狭隘で、普段の生活に非常に不便しているので最低限の整備はしてほしい。すべて止めろ、切るなではなく、そもそも里山である信夫山は皆に使われてきた山で、皆が使いやすいようにしてもらうのが地元住民としての要望。道路ならばある程度使いやすいように広げてもらいたいし、他県からの人を招くことを想定した場合、今の道路事情では県外からきたドライバーは走りにくいと思う。そのため最低限の整備はしてもらいたいと思っている。

(委員)

道路の問題であるが、考え次第でいろいろな考え方が出てくる。ガイドセンターに行く道も途中ですれ違う車の待避所があり、すべて道路にするのはいかなものと思う。

拡張理由が、初めから地域市民のためと言っているなら良いが、汚染土壌の搬出のためであるというのはいかがか、工夫を凝らしてつくってもらいたい。

(委員)

一番大切なのは汚染土の搬出だと思っている。これは早急にやらないといけない。そのための道路拡張は止むを得ないと思う。その後の処理は終わってから考えれば良い。

(委員)

第一展望台西側は、平成 43 年度（令和 13 年度）までに搬出する許可を取っている。その為に急いで学術的な価値のある岩や保安林を壊して災害が起きる状態にしているのであれば話が違ふと思う。汚染土を早く出すのは賛成だが、そういった形で信夫山はいろいろな問題が起きている。

(委員長)

それぞれの意見の異なる立場から議論をする中で、よい方向性を出していければと思うが、信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会なので、今のような課題については、委員から要望のある専門委員会できっかりと検討していただけたらと思う。他の委員の方からもご発言いただきたいと思う。

(委員)

意見書に記載のある「案内板の老朽化」はライオンズクラブのものか。

(委員)

いろいろあるが、ライオンズクラブの月山から降りる道の案内板は破損していた。他にも汚れていたりしていた。

(委員)

年2、3回は清掃活動をしているが気づかなかったのでこの件については持ち帰る。

(委員長)

意見書に目を通したところ、論点を整理して具体的に提言している委員がいたので発言をお願いしたい。

(委員)

まるごとミュージアムという捉え方をしているが、その中で信夫山の保全や活用を考えて行くというやり方をしていきたい。

例えば、まるごとと言ってもそれぞれ特徴あるエリアがあるので、エリアをきちんと定めてそれぞれの特徴を捉え整備していけばいいと思う。

他市でも行っている「歴史文化基本構想」というものがある。福島市でも構想を策定することになれば、その中に信夫山も入ってそれ以外の文化的なものも入ることになる。そもそも歴史文化基本構想というのは文化庁が提唱している。福島県の場合は三島町が先頭を切って策定しており、その後も策定する自治体が増えている。中でも国見町は素晴らしい歴史文化構想を策定している。

歴史文化基本構想をきちんとまとめ、文化財や歴史的な物をまちづくりに活用する事を定めれば、まちづくりに活用しやすくなるのではないか。福島市でも是非やってほしい。

(委員長)

基本方針に踏み込んで提案して頂いたと思う。第2回委員会の報告は以上とし、資料のP 20以降の「基本方針」の確認をしたい。事務局より説明をお願いしたい。

## ②保全に関する基本的方針

(委員長)

資料のP20「信夫山の自然・文化的・歴史的資源など…」、「自然・文化的・歴史的な様々な資源を専門的な見地から評価し…」、「信夫山や学習センターなどで学ぶ機会の提供を通じて…」の3点について何か加筆修正、提案があれば発言してほしい。

→特に意見なし。

P22「この里山を保全するには生態系を理解し…」、「希少な野生生物の保護を進めるため…」の2点について何か加筆修正、提案があれば発言してほしい。

→特に意見なし。

P24「貴重な信仰・文化・歴史資源の保全 ～守り、育む～」というサブタイトルが付いているが、市民に分かりやすいタイトルであり、定着すると感じる。基本的な方針として「信夫山の魅力を高めるため、貴重な資源を保全するため…」、先程ご提案いただいたガイドセンターやミュージアムの案については、この章の具体的な政策として合致すると思う。「文化的・歴史的資源などに関し、文化財所有者が行う修理をはじめ、文化財保護活動を支援する…」について何か加筆修正、提案があれば発言してほしい。

→特に意見なし。

P26「風景と眺望の保全 ～見る・見える・過ごす～」という3つの観点から基本的な方針として「良好な自然景観を維持し…」、「既存・新たな視点場の維持・整備における樹木等の伐採…」、「良好な歴史・文化景観や歴史的建造物等…」、「保存にあたっては、市民・事業者・行政等が景観の価値を共有し…」について何か加筆修正、提案があれば発言してほしい。

(委員長)

委員長としての個人的な意見だが、「見る」という字は観光の「観」の字がいいと思う。

(委員)

観光でも良いが、説明する時には観察するの「観る」ということではどうか。

また「きく」を加えてはどうか。詩人の和合さんが執筆の中で、見るだけでなく聞くと述べている。「聴く」ではなく「聞く」が良い。

(委員長)

「観る」と「きく」について次回の検討委員会まで精査してもらいたいと思う。

(委員)

P22 に「地方公共団体」と使っているが、P26 は「行政」という言葉を使っているが使い分けている理由があるのか、無ければ統一した方がいい。

(事務局)

P22 は市、国、県を含めた中での地方公共団体という言い方にした。P26 は文言の関係で狭い範囲と捉えていたが意見を基に統一していきたい。

(委員長)

P27 防災機能の維持で基本的方針として「土砂の崩壊その他災害の防備・生活の保全…」、「樹林密度の適正な管理…」の2点について何か加筆修正、提案があれば発言してほしい。  
→特に意見なし。

最後に P28 公園の防災機能の充実についてであるが、「災害等の非常時を想定した案内サインや設備の充実を図るべき」に関して意見があれば発言してほしい。  
→特に意見なし。

### ③活用に関する基本的方針

(委員長)

P33 の「集い楽しむ信夫山」について、意見が多いため6点にまとまっているが、何か加筆修正、提案があれば発言してほしい。  
→特に意見なし。

P37 の「街なかと連携した交通手段の充実と街なみ・歩行空間形成 ～楽しみながら信夫山へ～」であるが、まちづくり検討委員会ということだけあって、この検討委員会の肝であると思うところなので、楽しみながらどうやって信夫山へ人々を誘致できるか。「信夫山と街なかの円滑な移動を実現する交通手段、分かりやすい案内…」、「歩いて楽しめる街なみや信夫山散策の延長…」、「由来のあるわらじ、花、桜、の活用、また古閑裕而と関連した音楽の融合による街なかの賑わいの創出」、信夫山にも連携し展開して行く基本方針を立てているが、不足していることなど意見は無いか。

(委員)

信夫山のアクセスについて、現在太平寺岡部線が整備されているが、他の観光地は、正面玄関となる大通りなどが整備されている。信夫山は入口が何処だか分からない。地元の人には分かっているが、他から来た人は全然分からない。ただの案内板ではなく体系的に都

市計画道路を整備するのであれば、信夫山へのアクセス道路か神社の鳥居辺りまで誰でも分かるようなルートになれば、より人が来やすくなると思う。

(委員長)

入口が分からないという問題はきちんと基本方針に取り込んでいきたい。

(委員)

P37 の3番目の文章の中で記載している「花」であるが、信夫山をイメージした花が浮かばない。鳥居の入口あたりに藤の花は若干あるが、事務局では花をどんなイメージしたのか。

(事務局)

第1回委員会の時に、信夫山の中に咲いている花でショウジョウバカマ、カタクリ、柚子の花をイメージしていた。またお亡くなりになった委員は、信夫山の入口に彼岸花を飾っていきたくとおっしゃっていたためそれらを総称して花としている。言葉が足りなかったのでもう少し具体的にイメージできる様にしていきたい。

(委員)

昔は薬草やいろいろ花があった。今回の趣旨とは違うかもしれないが、そのような花々を是非復活させてもらいたい。

(委員)

今回の検討委員会の趣旨は具体的な事はなくて、アウトラインを提案していくという感じだと思う。それらを具体的にどうするかはこれからだと思う。

(委員長)

基本的な方針について議論するのが本委員会の趣旨だと思うので、具体案については専門委員会などで議論していただきたい。

(委員)

P35 に花によるおもてなし事業とあるが、私が関わっていることではプランターに花を植えて街中に相当の数を置いている。記載されている事業の拡大とはプランターを信夫山にも飾りたいということか。

(事務局)

おっしゃるとおりで、花によって信夫山までの道路におもてなしをできればと考えてい

る。

今回は基本的な方針ということでこの検討委員会の中で意見を頂いているが、なかなか先の具体的な事例がないと基本的方針も決まらないという事もあり、分かりにくい部分があるとは感じている。既にプランターの事業などいろいろやられているが、信夫山にプランターを設置するという事は現時点では考えていないが、信夫山まで導くまでの道路に設置することは考えたいと思っている。

今後、次の会にある程度議論的な方針をできれば決めたいと事務局で思っているが、どんなことをやるのか分からないのにできるのかという意見もあると思うので、いろいろと意見をもらえれば我々も事例をお見せしながら方針を固めて行きたいと思う。

(委員)

信夫山に植える花をどうするかはこれからだが、洋風な花は好ましくないと思う。信夫山の自然にある植物に蝶や動物などが集まってくる。洋風な花壇のようなものは望ましくないと思う。

(委員長)

委員の「自生していた花を復活させたい」ということから元々自生した花々を再生させたいと提案したい。

(委員)

P37 に街なかから信夫山へと書いているが、信夫山は競馬場が近いこともあり県外から競馬場から来ている方も多いと思うので、競馬場からのアクセスを検討してみたらと思う。JRA と協働するともっと人が信夫山へ流れてくると思う。

(委員)

駅前でも競馬場でも信夫山までの通りにプランターだけでなく、わらじのキャラクターをフラッグなどで点在させて、信夫山まで導く通りにすると楽しい明るいイメージになると思う。例えば「わらじい通り」。

(委員)

今ある自然を残し、市民や県外の人に安全安心に信夫山へ上がっていけるような散策路が欲しい。子供からお年寄まで信夫山に登りたいという場合、若者は登れるが子供、お年寄りには駐車場が必要になると思う。現在生活している住民側から考えてみると、これ以上通行車を増やしてしまうと非常に危険になる。

歩道の無い所を散策されると運転手側も歩く側も危険。駐車場はなるべく公園外に設置し、専用のタクシー乗り合い場を作って、山の中では自由に乗り降り可能な形にする提案

をしたい。

最近の若者世代はスマートフォンを自由に操っていろいろな情報を得ている。それを活用したらどうかと提案したいが、散策路ができた時、第一・第二展望台といった辺りに Wi-Fi が利用可能なコーナーを設けて自然や歴史、文化関係の情報を仕入れてもらう事を提案したい。ただそれだけで一般の観光客の方が信夫山に何があるという時にそれでは弱い。

そこで思いついたのが、これから始まるドラマの「エール」である。エールと言うのは応援という意味である。福島のために応援（エール）を送ろうと採用されたインターネットに書いてあったが、信夫山をエールの場所にできないか検討してもらいたい。何をやるかという、古関裕而先生はいろいろな曲を作曲しているが学校の校歌も作っている。しかし、何処の学校の校歌を作曲したかその情報は載っているが、曲は聴けない状態。

全国に校歌を発信し歌っている歌声や演奏などを提供してもらえないか。それを信夫山に登ると Wi-Fi の場所で聴けるようにすると、お年寄りも自分の母校の校歌を思い出すことができたり懐かしむことができる。

必要な設備はスマートフォンだけになるので、市側の予算的な面も少なく済むと思う。あずまやに設置したら面白いと思うので検討してもらいたい。

自分が所属している会では年2回開いている懇親会の中で「あぶくまの歌」を歌う。若山牧水が福島を訪れた際、阿武隈川の詩を読んだ。板倉神社の所に歌詞と音符が歌碑になって展示してある。信夫山から渡利を見た時に阿武隈川の川沿いに桃の花盛りという歌詞があり、ツバメが飛んでいると読んだ詠。

古関裕而先生の作曲した歌もエールとして、訪れた方への応援になるのではないと思う。

(委員長)

既にももりんウォーカーというアプリが副委員長の元で開発されているが説明いただきたい。

(委員)

格安で作っているのもまだまだ機能が充実していないが、ひとつの可能性としてどんな時代でも最先端のテクノロジーを使っている。そう考えると今、テクノロジーを使わない手は無い。わざわざ百科事典を持ちながら山を歩き調べる事をやる若者はいない。情報をスマホで活用できるならその方が絶対良い。

ワンクリックでできる仕組みを作れば誰でも活用するだろうし、そこに楽しみが加われば、様々な目的の人が活用し信夫山に来てくれると思う。

楽しみを通して、信夫山の事を知っていき、思いを馳せてくれればそれに越した事はない。来てもらうきっかけとして、AR を使ってマーカーシステムでももりんのアバターが英語でも日本語でも説明するものを作った。しかしまだ周知されておらず、ガイドセンター

でマップを持っていかないと何処でももりんが出てくるかというところだが、実際はポケモン GO みたいな形で探させるという形を考えたが、民地に勝手に入られて荒らされたら困る。もりんが出てくる場所が載っているマップをあらかじめ持っていないと楽しめない。しかし周知されていないからアプリを開発した段階で止まっている。

そこにバックアップ等あれば機能拡張やコースを増やしたりできる。街なかと信夫山をつなぐ間でもアバターで歴史やおいしいお店などを伝えられる。初期費用はかかるが、運用に関してはお金が掛からない。機能が拡大したら場合によっては課金システムにしてもいい。課金ですべて廻していける。

前回、活発な意見を重ねたのは分かったが、委員会のミッションが未だに分からない。何処までなのか。大きな方向性を決めるのであればそれでいい。第4回で決める。

みんなの言う事はごもつとも。きちんと保全をし、文化自然を保全しながら活用する。人々が将来集える場所にしたい。さらに観光資源になったらいい。

しかし、本当に実現ができるのか。まず、担い手が示されていない。例えば市が担うようになったら、例えば1億~2億かかるとして市民に説明できるのか。ボランティアやNPOと本当に連携できるのか。ボランティアは何処まで動いてくれるのか。持続可能なのか。行政がやる所と民間がやる所、民間も営利団体か非営利団体なのか。さらにはボランティアが何処まで手伝い、それをまとめるのは誰なのか。世界のツーリズムはその辺りがしっかりしているから実現可能で継続できている。

南相馬で海を使ったまちづくりに携わっている関係で和歌山大学の観光学部と共同研究していて、ニュージーランドに1年間行くがツーリズムの学会に呼ばれ意見交換をしている。本当にこの辺りを考えればツーリズムとはただ観光客を呼ぶだけではなく、いろいろな社会課題を克服していくことができる。

先住民と移民とのコンフリクトもツーリズムによって資源をうまく利用したためにうまく融合していった経過がある。またジェンダー問題も克服していった。さらに観光で成功していても自然環境を破壊していない。それどころか環境が良くなっているという事例がある。ところが、今のプランを見るとコンフリクトだらけ。道路を広げるべきではないとの意見とある程度住民が使いやすいように整備すべきとの意見の間でもトレードオフの関係が出てきてコンフリクトが出てくる。そうすると調整も含め、担い手から仕組みを考えていくとあくまで入口であり、今後は問題が相当起こるだろう。意見を集約して信夫山を活かすのであれば相当な本腰を入れ利害関係者、参加者プレーヤーをしっかりと選定し集めてやらないと何も変わらない形で終わる。厳しい意見だが、様々なバックグラウンドをもっている人から意見を集めるのが目的であればこれでいいと思う。

(委員長)

この委員会のミッションは何か原点に戻り確認させてもらった。担い手が誰であり、実現可能か具体的に持続可能か。入口から大きな問題だと思う。そこに立てたのが大きな一

歩と思う。

(委員)

信夫山に住んでまだ10年しか経っていないが、今会長をしているが、近隣には10世帯しかないのが現状であり、その中で誰がやるのか。高齢者も多く手が回らない。難しい気持ちでいる。

(委員)

校歌を流す案があったが保健福祉センターの所にオルゴールが鳴る場所があつて時間になると第四小学校の校歌が流れる。これからスマホを持つ世代になってしまうが、オルゴールや音声で懐かしいと感じてもらえる場所があるといい。

歴史的なものが沢山点在している中で観光客を呼んだ時に、人が増えるという事はポイ捨てや、入ってはいけない所に入る人が増えると思う。入ってほしくない所と見てほしい所を分けるとなると、整備も維持も人とお金が必要になるので考えないといけない。

(委員)

信夫山に来てもらう人がはっきりしてない。地元の方だけが来るだけで良いのか県外までターゲットにするのか不明。呼ぶならそれなりの整備をしないとイケない。実際、夜景がきれいで福島県で信夫山だけが夜景百選に選ばれているが、そうすると夜だけ県外からお客さんが来るかもしれない。地元ではない人が来ると安全面が心配。誰に対してのメッセージなのか明確にしてほしい。

(委員)

今回は全体像を示すということだが、具体化するというハードルがある。次は何を優先するのかを決めていかないとイケない。ARを使うのは大賛成。一人でも多く市民の人に来てもらい関心を高めてもらうことが、市としてこれから財政措置をするにしても条件になってくると思う。信夫山の過去の話でも問題があったが民地が多い。何かやろうとしても民地でぶつかり止まる事が過去にあったので、長期的に信夫山に関わっていくなら、市の方でもその点について整理してもらう事が大切。

#### ④今後のスケジュール

意見無し